

○3番（島田 正彦君） ご苦労さまです。

2020年オリンピック開催決定で、日本中が今、大フィーバーしてます。2013年から2020年までの経済効果は3兆円で、15万人の雇用が生まれると言われています。この効果は率直に認めたいと思います。

ただ、開催決定時の万歳三唱には、何か私、個人的に違和感を覚えました。今、被災地の方たちはどのような心境なのでしょう。今日で震災から2年半になります。いまだに不明者2,654人、仮設入居率が9割という現状でございます。この状況を日本人として真剣に考える心があるなら、決定の瞬間は万歳ではなくて、拍手でよかったのではないのでしょうか。滝川クリステルさんがプレゼンでお話をされていた「おもてなし」という言葉がありますけれど、これも大切な日本の心ですが、私個人としては、この機会に世界と被災地にメッセージを送るなら「思いやり」ではなかったのでしょうか。忘れないでほしいです。いまだに東日本大震災の収拾はされていないことを。

本日は5つの質問をさせていただきます。

まず第1はイオン東員について。

いろいろ既に議論されておりますけれど、重ねての質問になるかもわかりませんが、お許しください。2番目は子どもマルシェ開催について、3番目が若者サポートステーションについて、4番目が中部公園有効利用について、5番目がリサイクルセンターについての質問をさせていただきます。

まず最初に、イオンについての質問をさせていただきます。

7月3日、総務建設常任委員会で石川県かほく市を視察訪問いたしました。目的はイオンのかほく店視察でございます。イオンかほく店、平成20年10月にオープンしております。延べ床面積が2万2,800坪、駐車場が3,300台、テナント数130店舗、私どもの東員町は延べ床面積が2万5,000坪、駐車場が3,500台、テナント数が150ということで、一回り東員町のほうが大きいと思います。

平成24年の来場者数は776万人でございます。1日平均2万人。かほく市は平成16年3町が合併してできた人口3万5,000人のまちでございます。高齢化比率が25.8%、東員町よりも少し上をいっております。

合併時、市民の要望で70%と最も高かったのが大型商業施設の誘致でございます。平成17年、イオンサイドから打診を受けて、市のほうは環境安全課、都市建設課など、8つの課がチームをつくり、ワーキング会議を設置いたしました。また市サイドは危険な道路などを事前に調査し、道路整備、交差点改良工事に着工、この際、国庫補助事業などを採択し、スムーズに成立されました。

費用は約7億円、これは市の負担でございます。税収が約1億2,000万円ということで、今年中にその7億円はペイできるという見通しでございます。従業員はイオンが500人、専門店が1,000人、合わせて1,500人でございます。

ここで質問をさせていただきます。

私も何回もお話させていただいてます、1番、お買物無料バスの運行の件はどうなったでしょうか。

2番目、高齢者・障がい者お買物無料送迎バス運行の件はどうなったでしょうか。その際、伊賀市社協に研修に行かれたということですから、その詳細をお聞かせください。

3番目、雇用に関して地元採用は何名ぐらいになりそうですか。

4番目、売り場の一角に東員町のインフォメーションコーナーの設置を要請されましたか。

5番目、11月オープンに向けて、まちの観光とどのような形で反映されるのか、具体的に教えてください。

よろしく申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 樋口和人副町長。

○副町長（樋口 和人君） 島田議員からは、ただいま、交通弱者のお買物無料バス運行についてのご質問をいただきました。そのほかにも5点ほどご質問をいただきましたので、お答えをさせていただきます。

まず、お買物無料バス運行についてでございますが、この件につきましては、6月にイオンに対して、無料巡回バスの運行について、文書でご要望をさせていただきました。7月には、イオンモール東員の開設担当者と面談をし、石川県かほく市や伊賀市の事例を示し、具体的な協議をしたところでございますが、高齢者の方々など、お買物に不便な方には、ご自宅に届ける新たなサービスに方向転換をしたいということを理由に、無料バス運行を実施することはできないという回答いただいております。

一方で、午前中の鷲田議員の答弁にもお答えさせていただきましたように、三岐バスが路線バスを走らせるということを聞いておりました、これは東員駅、イオンモール東員、山城駅を結ぶ直通ルートでございますので、そちらをご活用いただくというのも一つの方法かなというふうにも考えてございます。

なお、議員からは、先進地としてご紹介をいただきました伊賀市社会福祉協議会へは、本町の社会福祉協議会の職員、長寿福祉課、町民課、それから地域福祉課の職員で訪問をさせていただきました。特に今後、本町でも必要となる地域福祉計画について、十分学ばせていただいたということで、先ごろ町長と私のほうに復命をいただいたところでございます。

次に雇用に関するご質問でございますが、3月に議会からのご要請もございました。直ちに3月に町長がイオンに出向いていただき、イオンモール東員のオープンに伴う雇用等についてもお願いをしたところでございます。

先ごろの情報では、イオンモール東員の募集定員、約2,300人みえるそうですが、そのうち3割ぐらいということで、約700人程度、町内からの採用とお聞きしておりますので、皆さんのご要請や町長のご要請も一定の成果があったのではないかなというふうには考えておるところでございます。

次に、インフォメーションの設置につきましても、正面玄関に設置されるインフォメーションを開放していただき、パンフレット等、あるいはラック、ポスターの掲示物、あるいは行政情報を町民の皆様やお買物に来ていただくお客様に発信できるような場を確保するというふうにも回答をいただいております。

次に議員から、オープンを機に観光にどのようにリンクされるのか、とのご質問をいただいたところでございます。観光におきましては、役場が中心になってなかなか進めることには限界がございますことから、やはり役場の役割としてはサポートに回るということが役目かなということをご認識してございまして、実際の事業をやっていただく、プレーヤーと申しますか、それにつきましては基本的に商工会、あるいは観光協会にお願いするところでございまして、イベントの開催や特産品の販売等をイオンとうまくマッチングをしていただいて、積極的に事業を行っていただき、こうしたことが積み重なることによって、だんだん観光化していくのではないかなというふうにも考えておりますので、ご期待を申し上げます。

以上でございます。

よろしくご理解を賜りたいと思います。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ご回答ありがとうございます。

午前中いろいろお話を聞いて、非常に消極的な回答だったと思いますので、あらかじめ予想はしてたんですけど、お買物無料バスというのは、かほく市で現在走っております。かほく市では、お買物無料バスと福祉バスが連動しながら各駅にとまって、イオンさんのほうに直結しているという話なんですね。

なぜかほく市でできて、一回り大きい東員町でできないのか。やっぱりこれには何か理由があるんでしょうかね。取り組みが全然、私かほく市に行って、皆さん、委員の方、感動されたと思うんですけど、議会と行政、それと一般の方たちが上手に連動しながら回ってきたような気がします。とにかく町というか、行政のほうに早い目に手を打って、イオンさんがやられる前にうちはこれぐらいやるよということで、ギブ・アンド・テイクが、ものすごく進んでいると思うんですね。いろんな条件が違うのは何回も聞いておりますので、同じ条件ではないと思いますけれど、

取り組みの仕方、交渉の仕方、この辺の持っていき方がどうかなというのは、私今すごく寂しく思っております。

伊賀の社協のほうに行っていたということ、私が最初に伊賀市の社協を訪問したのは、マックスバリュに無料バスがあるということで、2月8日に行っております。その後、町に帰りまして、町のほうに、こういう人がいるからプレゼンしてもらったらどうですかというのが、4月7日ですね。そのあたりいいじゃないかということで、東員町の職員さんと社協、皆さんが行かれたのが7月末ですね。すごく間があいてます。

私はもう本当にこの取り組みですね、イオンができたらすごいチャンスだと思うんですね。このチャンスを、ただ自宅配送します、それがちょっと違うと思うんですね。いくらでも電話でもできますし、そういう配送はできるんですけど、私が言っている高齢者、障がい者の無料バスというのは、バスに乗って買物を楽しんで、向こうでドッキングして会話をするという、ものすごく大きな意味がありますので、その点、副町長、どういうふうにお考えでしょうか。ものすごく便利なのはわかるんですけど、ただ自宅に送るとか、電話で荷物を届けますよとどまったら、我々がかほくに行った、視察した意味が全くありません。私は本当にここのノウハウを、ここにやっていただきたいんです。その件について、もう一度お願いします。

○議長（藤田 興一君） 樋口副町長。

○副町長（樋口 和人君） 再三、事務レベルではございますが、かほく市の内容、それから伊賀市の内容をお伝えして、東員町にも何とかならないかという協議をしていただいたんですが、根本的には高齢者のお困りの方には、この東員町では、イオンとしては自宅へ届ける方法で対処したいという、そういう返事でしたので、私どもとしても、目的が高齢者の買物を満たす、あるいは買物難民の方をする方法としては一つの方法かなということで、一定理解をしたということで、それ以上、もう一度という話はしてございません。その辺の様子は担当がしておりますので、もしその辺のやりとりのことであれば、担当のほうにやりとりの内容を答弁させますが、私が認識したのは、新しいそういう宅配方式で対応するというところで聞いておりますので、それも一つの方法だなというふうには理解をしております。

以上でございます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

何のために伊賀市の社協へ来ていただいて、無料バス運行の手順を、ノウハウをお聞きしたのか、意味がわかりません。

同じことなんですね。自宅配送とか、いろんな便宜性を図るものはいっぱいあります。ただ、そうやないんですね。高齢者の方は楽しめます。バスに乗る楽しみ、

みんなと一緒に乗る、向こうで買物をして会う、そういうコミュニケーションですね、ここが一番大事なポイントなんですね。

ただ便利さを追うんだったら、いくらでも便利なことはあると思います。自宅に座りながら電話一本で荷物は来るんですからね。私はそれでイオンさんに対して納得されるのがちょっと悔しいです。これが終結やないと思いますので、まだそういう町民の意見もあるということを、再三にわたって今後訴えていってほしいと思います。

雇用に関して、かほく市は1,500人のうちの500人、33%ですから、これはクリアされているのではないかと思います。それと売り場の一角に東員町のインフォメーションコーナー、これもかほく市では、真ん中のところにメインステージがありまして、テレビが置いてあって、そこで広いスペースをいただいて、市の一番新しい情報を発信しております。

これもまた私も見てないものでわかりませんが、ちょこちょことしたような感じであれば、全く私らの希望している大きさではございません。

町長も昨日お話がありました。イオンは観光のためにあまり役に立たんだろう。私の聞き違いなら申しわけございません。あくまでもあそこは1日遊ぶところだと。私は全然そんなふうに思っておりません。千載一遇のチャンスだと思っております。

大きなものが出てくれば、周囲は必ず活性化するんです。ただしそういう仕組みをつくるのが、行政がきちっとやらないと、ただ、できました、1日つぶしました。せつかくですから、私は何回も言いますが、このチャンスはまだ2カ月あります。何とか議会でこういう話があつて、もう1回、ステージに戻って交渉していただだけませんか。東員町のインフォメーションコーナーが一番いい場所にとってください。ここが本当に皆さんに情報発信の大きな糧になると思います。

それと11月オープンに向けて、観光にどのように反映しますかということでありまして、これも観光協会のほうと上手に行政の側も打ち合わせをしないと、本当にチャンスを逃がしますね。平成27年にインターができますけれど、何の効果もないと思います。ここで全てだと思えます。もう一度、観光に向けての取り組みを聞かせていただだけませんか。お願いします。

○議長（藤田 興一君） 樋口副町長。

○副町長（樋口 和人君） 今の段階でお答えをしたことではございますし、11月23日以降オープンをしてからでも、例えば今おっしゃっていただきました高齢者のバスのこととか、そんなことについても今後も長く続くものですから、今、全部解決しなければならぬということもございしますが、様子見をしながら、一番いい方向、ご提案いただいたようなことも含めて、今後も協議を続けていきますので、そのことについては、今ここで終わったということではございません。一生懸命やったけれども、今の時点ではそんなふうにイオンから回答をいただいたという

お話をさせていただきましたので、これは今後とも協議を続けてまいりたいと思います。

観光の話でございますが、観光の話につきましては、町長も東員町のまちが、イオンが来るからまちづくりをそれでやるんだということであって、町長のお言葉をかりますと、身の丈に合った、ずっと未来に続いていく、持続できるようなまちづくりというのを考えていかないとあかんというようなことを昨日も申されましたが、それがまちづくりのベーシックな話かなとも思うんですが、イオンも事実上オープンしますので、そこのお客さんが、まずは東員町というところに関心を持っていただくということが重要でございますので、そういった意味では、役場のやる役割もでございますので、それは果たしていきたいなと、そんなふうには思っております。

ただ、プレーヤーは、先ほど申し上げましたように商工会や、あるいは観光協会の方々がその気になっていただくというのが一番重要かと思っておりますので、その点についても役場のほうから担当部局を通じて、そのように働きかけるということはやってまいりたいと、そんなふうには思っております。

以上でございます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

お買物無料バスと高齢者・障がい者無料バスが開店に間に合わないのであれば、例えば今のオレンジバスをネオポリスから直行で出すとか、そういうことはお考えではありますか。

○議長（藤田 興一君） 樋口副町長。

○副町長（樋口 和人君） 公共交通会議でルートを決定するということになってございますので、午前中の鷺田議員にもお話をさせていただいたんですが、今、いろんな交通状況が、きちとした形で見えてきてません中で、なかなか決めにくいものですから、少し様子を見させていただくというご答弁をさせていただいたんですが、それと同様に、もしイオンのほうの無料バスというのがかなわなければ、ある一定様子を見た上で、例えばイオンが設置していただいているバス停がございますので、そこに移動すると同時にルートも決定し、うまく高齢者の方々がオレンジバスを利用できる形態がとれれば、それも1つの考えかなとは思いますが、何せ3台で今動かしておりますので、頭の中で少し考えても、いろんな方面に出すというわけにもなかなかいかないものですから、制約はあるのかな、その中で考えていく必要もあるのかなというふうな、今のところそんな答弁でしかないのかなというふうには思っております。

以上でございます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） 3台の中でその部分が増えれば支障が出てきますけど、3台を4台にするとか、そういう発想も考えていただきたいなど。

イオンができた、行きたいんだけど不便だというような声が上がらないように、ぜひ今後ともお願いしたいのと、観光協会、商工会ですね、その辺はやっぱりこちらがリーダーシップをとって、話の中に持って行っていただけるようにしないと、みんな孤立してしまって何も花が咲かないのですね。そういうことの徹底をお願いしたいと思います。

チャンスをチャンスととらえなければただの現象にすぎないです。チャンスにはタイミングがあります。あと開店まで3カ月を切りましたので、できないのではなくて、もう一度チャレンジをしていただいて、町民が利便性を感じるように、ぜひ努力をお願いしたいと思います。

ありがとうございます。

2つ目の質問に入ります。子どもマルシェについて。

まだあまり聞き慣れない言葉だと思いますが、全国各地で子どもマルシェの開催が広まっております。小学生たちが野菜や果物などの販売をする仕事の体験を通して、職の知識やコミュニケーション力を身につけてもらう取り組みです。

販売する野菜や果物などの値決めからポップづくり、ディスプレイなどを自分たちで分担して販売いたします。お客さんと直接接することで販売の難しさや人に対する思いやり、きずななどを体験し、物の流通の仕組みやお金に関して考えるきっかけをつくります。

子どものいじめ問題など、陰湿な事件が後を絶ちません。小さいころから物を大切にする心、人を大切に思う心など、授業だけでは教え切れないことがたくさんあります。東員町は非常にきめの細かい教育をされているということは評価いたしております。さらにこのような子どもマルシェの開催により、心のきずな、自立心などが多く学ぶことができると確信しております。

そこで質問をさせていただきます。

町が制定に向けて取り組んでいる、子どもの権利条例に関連する子どもマルシェを積極的に開催されてはいかがでしょうか。

2番目、中部公園で来春、大イベントが開催される予定でございます。町の小学生を学校区で募集し、マルシェブースを出して、そのような提案をいたしますけれども、いかがでしょうか。

よろしく申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 岡野譲治教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 島田議員の子どもマルシェ開催についてのご質問にお答えをいたします。

まず、各町内の幼稚園・保育園、小学校、中学校では、今年度から全ての子どもたちが、社会でいきいきとした自分の人生を歩めるようにと策定した「16年間一貫教育プラン」に基づいて、子どもたちの「基本的信頼感」「自己肯定感」「自己有能感」を育み、意欲を高める保育・教育の実現を目指し、具体的な取り組みを始めたところでございます。

また、同時に子どもたちが主体的にかかわる中で、仮称ではございますが「子どもの権利条例」の策定を始めたところでございます。

さて来春、中部公園にて大きなイベントを計画されているということで、その中で「子どもマルシェ開催」のご提案をいただきました。子どもたちが主体となってブースを運営し、例えば自分たちが育てた野菜や制作した作品等を販売するという体験活動は、さまざまな方々との交流も含めて、有意義なものであると考えているところでございます。

しかしながら実際にブースを設けるとなれば、当然ながら十分な計画のもと見通しを持ち、さまざまな準備を進めなければなりませんし、何より学校や子どもたちの主体性や積極性が必要不可欠でございます。

今回ご提案いただきました件につきましては、慎重に検討させていただきたいと考えますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

この近々では、いろいろ調べたけれど、まだそこまで入ってません。だからこそ逆に東員町がナンバーワンに、一番最初に踏み出してもらえないかという意見がございます。

そんな難しいことではなくて、ブースを2つ3つ出してもらって、皆さんが売ってる中の横で、小学生だけでやってもらうということですね。お金の計算も全て含めて。やっぱりお金の尊さとか人との触れ合いとか、授業では、なかなか教科書では教え切れないものがあると思います。そういうものをこういう課外授業的なもので進めていただければ、子どもマルシェですね、非常に発展性もありますし、子どもたちのためにもなりますので、教育長、ぜひ6カ月ございますので、検討はお約束いただきますでしょうか。

○議長（藤田 興一君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

内容自体は私もお聞きしまして、大変興味のあるものだなと一つ思っております。小中学校では職場体験といいますか、そういうのでキャリア教育の一環として、既にいろんなところで、子どもマルシェではないですけども、取り組みを始めております。



私が先ほど慎重に検討するとお答えをさせていただきました中身は、ご承知のとおり、学校というのは教育目標を立てて、そして教育課程、具体的な編成を1年の最初に立ててやっております。

子どもマルシェのことで言うならば、多分ですけども、作物づくりをしているところはあるんですけど、マルシェ用にしているかとか、何かの作品を売るためにつくっているかという計画の中ではやってないと思います。その中に、今から4月にマルシェがありますと。その中でこういうのをやりましょうとかということを教育委員会のほうから言うのは少し難しいかなということで、慎重に検討させていただくとなりました。

ただ、子どもたちの経営教育の一環として、将来的にいろいろな可能性があるものであるので、紹介だけはさせていただこうかなと思っております。

以上でございます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

今反対するものというのは、JAとタッグを組んで、JAがつくった作物をお手伝いするというのもマルシェの中の一隅ですから、自分たちが行程の中でキャベツをつくったりして売るだけではございませんので、ぜひそういう視点からもご検討のほう、よろしく願います。

ありがとうございます。

それでは3点目の質問をさせていただきます。

3点目は、若者サポートステーションについてでございます。

平成13年、今年8月20日に四日市市で北勢地域若者サポートステーション業務報告会というのがございました。私、出席をいたしました。出席者は議員の中では県会議員が10名、市会議員11名、町会議員が6名、全部含めて60名ぐらいですね、おみえになっておりました。

若者の失業率というのは全体の雇用環境の改善を反映して、多少減少傾向にはありますけど、正規雇用者に占める非正規雇用者は、25歳から34歳の若者層では26.1%と、過去最多でございます。2012年、15歳から34歳の若者のフリーター数は180万人、昨年対比4万人は減っております。ニート数、63万人、依然高い数値で推移をしております。それを少しでも軽減させようと、サポートステーションが全国に116カ所、三重県には4カ所ございます。

サポステのお仕事としては、まず第一段階は相談の実施、就労に向けた問題点の洗い出し、課題、目標設定、2つ目が基礎能力の習得、コミュニケーション訓練ですね。3つ目が実践、アクション、職場見学など、就労のイメージをつくるという仕事でございます。全国で去年、33万人の相談者がございました。進路決定者は1万5,000人、約4.5%です。

北勢地域若者ステーションは、今、四日市市、桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町、3市5町でございます。三重県のサポステの利用実績は、それぞれスタート、開所時期が違いますので一概に言えませんが、三重県全体では2万8,500人の相談者に対して1,055人、東員町は167人ご相談に行ってます。決まったのは8名です。認知度が低いというのが理由だと思います。ハローワークが90%の認知度を誇るのに対して、サポステは7%を切っております。今後の告知、PRなどをどのような責任分担で展開していくかがキーになっております。

そこで質問させていただきます。

- 1、町の19歳から39歳の方たちの就業率は何パーセントですか。
- 2、町のニート、フリーターの方たちの数は把握されていますか。
- 3、開所以来、町より何名が利用されているか、状況を教えてください。
- 4、このサポートステーションを若者定住促進の一環とお考えでしょうか。
- 5、北勢地区若者ステーションの中で町が果たせる役割はどのようにお考えでしょうか。

よろしく申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 岩田利弘生活福祉部長。

○生活福祉部長（岩田 利弘君） 島田議員の、若者サポートステーションについてのご質問にお答えいたします。

まず、北勢地域若者サポートステーションは、おおむね40歳未満の無業状態にある若年者及び保護者の方々を対象に、就労に向けた相談・支援を厚生労働省の受託事業として、NPO法人が平成23年度から取り組んでおります。

ご質問の町内の19歳から39歳までの方たちの就業率とニートやフリーターの件でございますが、ハローワーク桑名にお尋ねしたところ、桑名管内全体の35歳未満の求職者数は1,018人でありましたが、市町単位での把握はされておらず、あくまでも求職の届出があった方のみで、働く意志がないケースまでは把握できていないとのことでありました。

次に、北勢地域若者サポートステーションでの町内の方の利用状況でございますが、こちらは平成23年の6月にオープンをされまして、東員町からの利用者数は、述べ人数で平成23年度が35名、平成24年度が78名、平成25年度は4月から7月までの4カ月間で54名であり、2年と2カ月の間に167名の方々が利用されました。そのうち進路決定者は、平成23年度3名、平成24年度3名、そして平成25年度2名の合計8名でございました。

次に、若者サポートステーションと若者定住促進との関係でございますが、この若者サポートステーションは、働くことに悩みを抱えている若者の就労支援を目的

としておりますので、支援を行った結果、若者の職業的自立が果たされれば、非常に喜ばしい状況であると考えております。

次に、町が果たせる役割につきましては、私どもの窓口に直接電話や相談があった場合に、若者サポートステーションを紹介し、このような専門機関につなげていくことと、まだまだ、この若者サポートステーションの認知度が低いことから、皆様に周知を行うことが町の役割と考えております。

また、11月から、保健福祉センターで毎月1回、第1水曜日の午後1時から午後4時30分まで、若者サポートステーションの出張相談を開設することが決まりましたので、本町といたしましても、現在、広報やホームページに掲載し、周知の準備を進めておりますので、何とぞご理解のほど、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

先ほども言いましたように、認知度が非常に低いですね。その低いのを11月にやられるということですが、どういう告知で、ホームページとか、そういうものは見られない方もみえますので、告知方法にかかっていると思うんですね。それは北勢の四日市市の所轄でもおっしゃってみえました。そこが課題なんですけど、何かいい妙案があれば教えてください。

○議長（藤田 興一君） 岩田生活福祉部長。

○生活福祉部長（岩田 利弘君） 先ほども答弁させていただきましたけども、広報とかホームページのほうで掲載させていただきたいと考えております。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） 若者の定住促進を図るいろんなものがなくなっていく中で、このサポステというのは、まず就職させるということですから、足をつけて、しっかりと東員町に住んでもらうということですから、そういうご理解はされていますよね。結構です。

4番目の質問に入ります。中部公園の有効利用について。

1、年間を通じて従来のイベント以外にイベントを企画されてはいかがでしょうか。

2、町にお金が落ちる仕組みを構築されてはいかがでしょうか。

3、中部公園を民間による指定管理にされてはいかがですか。隣のいなべ市では、来年度、農業公園が指定管理になるというふうに聞いております。

4、中部公園はまちおこしの原点だと思います。イオンオープンにあわせて活性化をしないと出遅れます。町として何か具体的なプランをお持ちでしょうか。

よろしくお願います。

○議長（藤田 興一君） 藤井浩二建設部長。

○建設部長（藤井 浩二君） 島田議員の中部公園の有効利用について、お答えを申し上げます。

中部公園は平成16年に開園以来、多くの方々にご利用をいただいております。特に気候のよい時期には大変なにぎわいで、非常にうれしく思っているところでございます。

また、中部公園は都市公園法に基づき、整備をさせていただいたものでございまして、町内はもとより、町外の皆様にも多数ご来園をいただき、交流、憩いの場としてご利用をいただいております。

議員ご提案のイベントの開催でございしますが、イベントの開催を否定するものではございませんが、公園はあくまでも散歩など軽運動や、河川など、自然と触れ合っていたりなど、ゆっくりご利用いただくものと考えており、また、仮にイベントを開催する場合であっても、公共性のある団体が、公園が公の施設であることを十分理解をしていただき、開催していただくものと考えております。

次に指定管理者による公園管理のご提案でございしますが、コスト削減の手法として、常に念頭に置いているところでございます。現在、中部公園管理棟の管理業務を東員町観光協会にお願いしており、当該協会に全ての管理を委ねることが適切とは考えるところでございしますが、協会の体制や公園の規模を考慮いたしますと、当分の間は町にて管理を行うことが妥当かと考えているところでございます。

最後に、イオンオープンに伴う中部公園の活性化についてのご提言でございしますが、先ほど申し上げましたとおり、中部公園は交流、憩いの場であると考えておりました。イオンオープンによる町内外から多くの方がイオンへ来店されることが予想されますが、イオンへのお客様と中部公園の来園者の目的は、それぞれ違うものであると考えております。

しかしながら議員ご指摘のとおり、イオンへお越しの他市町のお客様が、公園にお立ち寄りいただき、クチコミなどで中部公園のよさ、東員町のよさを、お住まいの市町などへ届けていただければと、少し期待もしているところでございます。

いずれにいたしましても、中部公園は交流、憩いの場としてご活用いただきたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

何か毎回お話を聞くと、私とあまり関係はないような感じで、私は中部公園というのは、ここの町の核でございまして、もうここしかないと思ってます。観光から全てですね。それを憩いの場だけで終わっていいんでしょうか。やはりお金を落とさせていただけるような仕組みをつくっていただきたいんです。

隣の農業公園の話も何回もしてます。収益があります。今、2,200万円、管理費に使われておりますけれど、800万円はパターゴルフとかバーベキューです

ね、収入は戻っております。これをチャラにするぐらいの、何かそういうものをまちおこしをしたらいかがでしょうか。別にイベントをやるからといって、憩いの場所が損なわれるわけではございませんので、イオン開店のタイミングに合わせて、もう少し活性化をすれば、もっと若い方がこのまちを訪問されて、このまちに住みたいなという考えも出てくるかも知れません。その辺をもう少し積極的にお考えを願えないでしょうか。一年半ぐらい前から同じようなことを言ってますけど、なかなか進展はしておりません。小さな売店だけはつくっていただきましたので、感謝をいたしております。

これに関して、来年、来春、大きなイベントをやらせていただくんですけど、このようなイベントを年に2つ3つやっていたら、非常に皆さん、いろんな地区からお集まりになれると思いますので、東員町のPRにもなると思います。その辺、藤井部長、もう一度前向きな意見を述べていただけないでしょうか。イベントに関してね。

○議長（藤田 興一君） 藤井建設部長。

○建設部長（藤井 浩二君） お答えを申し上げます。

島田議員から何遍も議会があるたびにご質問をいただきまして、いろいろと答弁をさせていただいております。

私は公園というものは、基本的に私どもつくらせていただいた中部公園、本当に理想的な公園で、お子様たちが、家族づれが訪れて、たくさんお金を使う場所がないから、逆に今の若いお父さん、お母さんたちは芝生広場の中で楽しく過ごしていただいております、それがすごくうれしく思っております。

もう一つ、売店をつくらせていただいたのも、そこへ来場される方がお昼何も食べるものがないとか、近所にコンビニができませんので、コンビニもないということから、それがかねて、小さな売店でございますがオープンをさせていただいて、これもまた好評で、たくさんご利用をいただいております。

また、ある議員からご提案をいただきましたバーベキュー広場が欲しいなということで、バーベキュー広場を後でつくらせていただいて、それもここでいろいろ使わせていただいております。

そんな形が公園のあるべき姿かなというふうに、一つ私は思っております、大変、島田議員には申しわけない答弁ばかりになっておりますが、その辺は一つあります。

それと貴重な町税というお金を使わせていただいておりますが、この公園につきましては、交付税の基本算定の中で基準財政需要額というものがございまして、町の交付税の算定に大きなファクターを占めておりまして、公債費の返還分もございまして、約4,200万円ほどの交付税の算定がございまして、これは言うまでもなく、公園が公のものであって、いわゆる戸を立てるわけではなく、いろんな人、町

外の人、町内の人関係なしに皆さん使っていただくことが基本となっておることから、こういうシステムになっているのかなと考えております。

しかしながら今ご提案をいただきました大きなイベント、来春お考えでございまずので、それについては私、先ほど申させていただきました、公の施設としてご理解をいただいた上でイベントをしていただく、これが大変重要なこととございまして、そういうことをご理解いただく団体には大いにイベントを開催していただきたい、また私ども、それについてはご支援をさせていただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

来春、一応また評価をしていただいて、それが非常にフィーバーするようであれば、またそういうものを定期的にやっていただくということで、ぜひよろしくお願いをいたします。

最後の質問になります。リサイクルセンターについて、お伺いします。

前もお話をさせてもらいましたけど、クルクル工房というのが桑名にございまして、平成24年度の実績を手に入れましたので、ちょっとお話をさせていただきます。

クルクル工房が目指していること、ごみ減量、再資源化活動の充実を図り、シンプルな生活をつくり出し、未来に生きる子どもたちに住みやすい環境と資源を引き継ぎます、ごみの減量と再資源化は豊かな環境と限りある資源の保全につながりませぬ、ということですね。

開設が平成13年3月、敷地面積、720坪、建物の述べ床面積が185坪、これは資源回収のスペースも含まれます。堆肥舎が後でできましたので、これの坪数が75坪、建設費用総工費、9,900万円、このうち国庫補助金が2,500万円です。県市の補助金はありません。追加工事、堆肥舎が990万円かかりました。県の補助金は600万円です。市からの委託金は2,200万円。その内訳ですが、企画運営業務で1,900万円、生ごみ堆肥化業務で300万円、合わせて2,200万円です。

ここがどういうふうな販売実績があるかといいますと、リユース、リサイクルですね、服とか寄附された物を売った年間が9万9,000点で760万円ございまず。資源物回収実績が2,200トンで1,900万円、合わせた金額を市へ全部戻しております。2,660万円を市のほうにバックしております。年間利用者数が約21万人、クルクル工房での資源回収量は、市全体の資源ごみの28%に達しております。従業員はNPO会員30名で、交代で勤務をされております。

このような形で採算がとれるようなところまで来ておりますので、この点について、2つ質問させていただきます。

6月議会でも質問しましたリサイクルセンターへのその後の取り組みはどうか。具体案、プランがあればお聞かせください。

よろしく申し上げます。

○議長（藤田 興一君） 岩田利弘生活福祉部長。

○生活福祉部長（岩田 利弘君） 島田議員のリサイクルセンターについてのご質問にお答えいたします。

ご質問にもありますように、桑名市のリサイクル推進施設「クルクル工房」は、市がNPO法人に管理・運営を委託し、不要になってもまだ使える物や新品で使っていない物の再利用の場を提供するための「クルクルシヨップ」や紙類、布類、ペットボトル等を回収する「資源物回収ステーション」、生ごみから堆肥をつくるための「堆肥舎」、環境学習教室や環境、ごみ等に関する情報提供の場となる「環境資料広場」から構成されております。

本町も毎年多くのごみが排出されており、これらを解消するため、徹底したごみの減量化、可能な限りごみは資源化に努めているところでございますので、リサイクルセンターのあり方についても、資源循環型社会を構築する中で、その必要性や具体的な施設内容を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

○議長（藤田 興一君） 島田議員。

○3番（島田 正彦君） ありがとうございます。

今すぐということではなくて、2年、3年先ですね、いろんなプランニングをしていただいて、非常に役に立つ、また一般の町民に対しても、ごみの啓蒙になると思うんですね。それでまたお金を生むというこの仕組みですね、そういう構築をしていただきたいと思いますので、ぜひよろしく申し上げます。

これで質問を終わります。

ありがとうございました。